

ふるさと東総

平成31年3月1日発行 No.18

掲載 内容

- 東総地区広域市町村圏事務組合管理者あいさつ…………… 2
- ごみ処理広域化推進事業…………… 2～5
- 銚子連絡道路整備促進事業…………… 6
- 職員採用試験合同実施事業・職員共同研修事業…………… 7
- 東総地区広域市町村圏事務組合の概要…………… 7
- 東総地区中学生海外派遣研修事業…………… 8



△ごみ処理広域化推進事業 銚子市野尻町地区で計画する広域ごみ処理施設（イメージ図）

編集・発行／東総地区広域市町村圏事務組合

〒289-2521 千葉県旭市八の 612-1 東総振興センター内
電話：0479-62-3305 FAX：0479-62-3302
ホームページアドレス <http://www.tksj.jp/>

はじめに ～循環型社会の形成を目指して～

昨年は、冬季オリンピックやサッカーワールドカップなど、世界レベルのスポーツの舞台で日本人選手が大活躍し、日本中が大いに盛り上がりました。

一方で、夏から秋にかけて毎週のように日本にやってきた台風、北海道や大阪で発生した地震、西日本など各地で発生した豪雨など、さまざまな自然災害が日本列島を襲った一年でもあり、被災された地域の日も早い復興をお祈りしております。

近年、私たちの日常生活や企業の経済活動は、1つの自治体区域の枠を越えてますます広域化しています。このような中、東総地域においては、銚子連絡道路をはじめとする道路網や広域ごみ処理施設などの住環境整備、更には医療・福祉施策など広域的な行政サービスの充実が望まれております。

特に当組合がこれまで取り組んでまいりました「ごみ処理広域化推進事業」においては、地元地域の皆さまをはじめ、関係者のご理解とご協力により、広域ごみ処理施設と広域最終処分場の両施設の建設工事が始まり、東総地域において長年の念願であった「ごみ処理広域化」が着実に進んでおります。今後もより一層の循環型社会の形成を目指して取り組んでまいります。東総地域の皆さまには、ごみの減量化と資源化に引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。



東総地区広域市町村圏事務組合管理者（旭市長） 明智 忠直

ごみ処理広域化推進事業

銚子市内で広域ごみ処理施設と最終処分場の 建設工事がスタート

地元地域の皆さまのご理解とご協力のもと、銚子市野尻町地区で計画する広域ごみ処理施設では、「設計・建設、20年間の運営維持管理業務」を実施する事業者が、また銚子市森戸町地区で計画する広域最終処分場では、「建設工事」を実施する事業者がそれぞれ決定し、建設工事が始まりました。両施設ともに、2021年4月の稼働を予定しています。

銚子市、旭市、匝瑳市それぞれの既存のごみ処理施設は老朽化し、最終処分場の埋立残余容量も少なくなっているため、3市ともに新たなごみ処理施設と最終処分場の建設が急務です。これらの施設は、私たちの生活に欠かすことができない重要な施設です。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



▲広域ごみ処理施設整備及び運営事業建設工事 起工式の様子（銚子市野尻町）



広域ごみ処理施設整備・運営事業



広域ごみ処理施設は、鉾田市、旭市、匝瑳市3市の家庭などから出されるごみを適正に処理するとともに、資源循環を推進するための施設で、高効率ごみ発電施設とマテリアルリサイクル推進施設を整備します。

高効率ごみ発電施設では、ごみを焼却し、その熱を利用して蒸気タービンを回して発電を行います。また、ごみ中の鉄分等は溶融され、建築資材等（スラグやメタル）として有効利用できます。

マテリアルリサイクル推進施設では、カン類やペットボトル類等を資源としてリサイクルします。

事業名	広域ごみ処理施設整備及び運営事業
建設地	鉾田市野尻町地先
面積	約48,000㎡
事業方式	DBO(公設民営)方式
業務概要	- 施設設計・建設業務 ～2021年3月31日まで - 施設運営・維持管理業務 2021年4月1日～ 2041年3月31日(20年間)
施設概要	- 高効率ごみ発電施設(焼却施設) シャフト炉式ガス化溶融炉 198t/日 - マテリアルリサイクル推進施設 カン類 3.6t/5h ペットボトル 2.6t/5h (選別、圧縮梱包)
事業者	- 代表企業 新日鉄住金エンジニアリング 株式会社 - 契約金額(税抜き) 366億8千万円 内訳) 施設設計・建設費 209億9千万円 施設運営費(20年間) 156億9千万円

● 建物・配置計画

施設は、高効率ごみ発電施設及び
マテリアルリサイクル推進施設、スラグストック棟、
管理棟等を配置します。
管理棟には、子どもたちが自然エネルギーを
学習するスペースとして、展示エリア等を
設けます。

- ① 高効率ごみ発電施設
- ② マテリアルリサイクル推進施設
- ③ スラグストック棟
- ④ 管理棟
- ⑤ 計量棟
- ⑥ 洗車場
- ⑦ 調整池



▲プラットフォーム イメージ図



▲管理棟展示エリア イメージ図

● 広域ごみ処理施設の特長

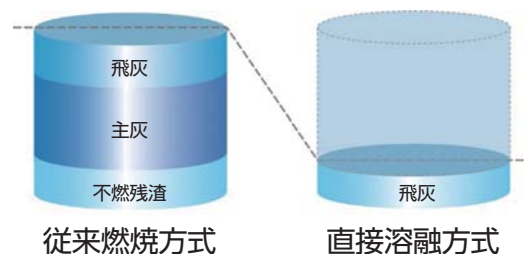
スラグ・メタルの有効活用

1,800℃の高温で、ガラスや金属などの溶けにくいごみも確実に溶融させ、高品質なスラグ・メタルに再資源化します。スラグは建築用資材や肥料、メタルは重機の重りや原料として様々な場所で利用されます。



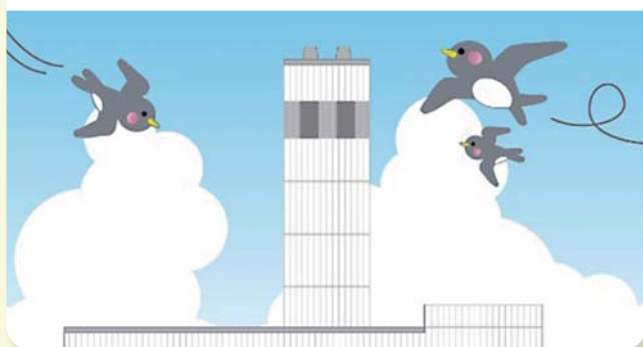
最終処分量の減量化

従来燃焼方式で発生していた主灰や不燃残渣を溶融・資源化处理することで、最終処分量を大幅に低減します。



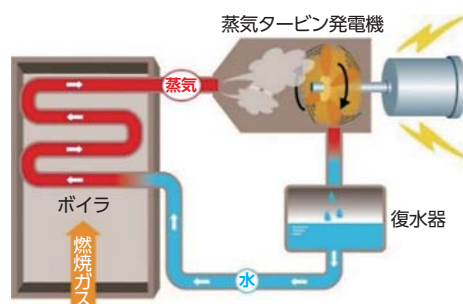
国内最高水準の排ガス処理システム

排ガスによる環境影響に配慮し、ごみ質の季節変動の傾向を運転条件に反映するなど、公害防止基準よりも厳しい基準で運転します。

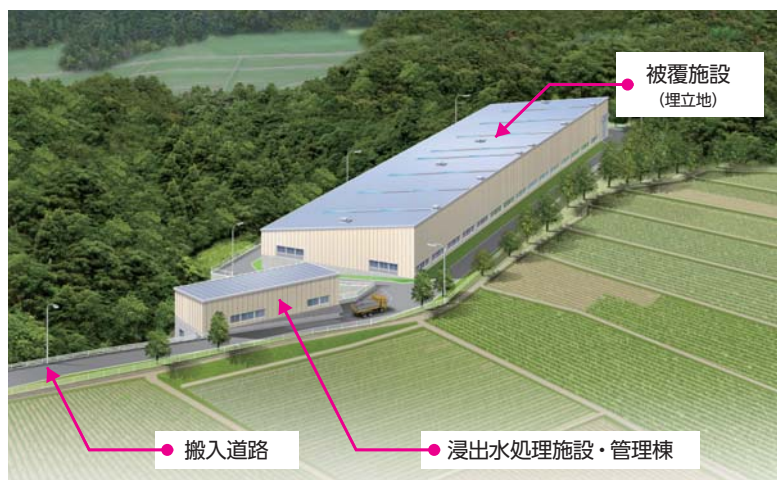


高効率ごみ発電と経費削減

本施設の高圧高温ボイラは、実績ある技術を活かして高い発電効率を達成します。発電した電気で施設の運営を行い、余剰発電分を売電することで財政負担を軽減します。

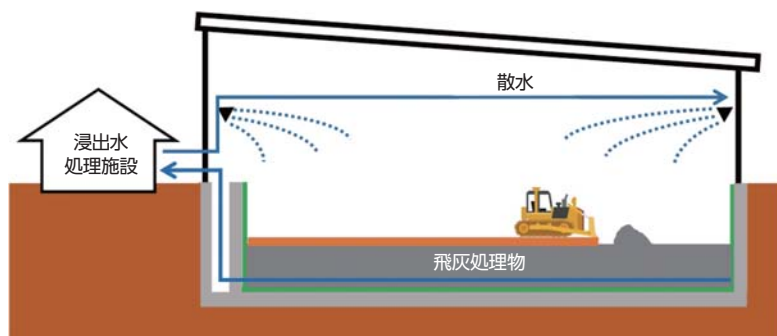


広域最終処分場建設工事



計画施設は、クローズド型最終処分場と呼ばれる施設です。埋立地を被覆施設で覆うことにより風雨等の気象条件の影響を受けなくなり、埋立物の飛散防止も図れるため、オープン型処分場に比べて安定した施設の運転が可能となります。

また、処理水を循環利用（下図）し、外部への無放流が可能となるため、処理水による周辺環境への影響を防止できます。



工 事 名		広域最終処分場建設工事
建 設 地		銚子市森戸町地先
工 事 期 間		2018年12月～ 2021年3月
工 事 概 要	内 容	一般廃棄物最終処分場 (クローズド型) 建設工事
	目 的	土木一式工事、建築一式工事
	規 模 ・ 構 造	●事業地面積：約21,000㎡ ●埋立地面積：約3,500㎡ ●埋 立 容 量：約37,000㎡ ●貯留構造物：鉄筋コンクリート造 ●被 覆 施 設：鉄骨造 ●遮 水 設 備：二重遮水シート ＋漏水検知システム ●浸出水処理施設： 処理能力10㎡/日 (処理水は循環利用) ●その他 地下水集排水設備 雨水集排水設備 浸出水集排水設備 管理棟・洗車設備 等
工事事業者		日本国土・鈴木特定建設工事 共同企業体
工 事 費		33億4,200万円 (税抜き)

建設工事のスケジュール

広域ごみ処理施設は、昨年7月から工事を開始し、伐採、切土、盛土等の造成工事を進めてきました。12月末には造成工事が完了し、今年1月から工場棟の建設工事を開始しています。

広域最終処分場は、今年1月から仮設工事とともに造成工事を進めています。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
広域ごみ処理施設	造成工事	建設工事		
			試運転	稼働
広域最終処分場		仮設工事、造成工事、貯留構造物工事		被覆施設工事 浸出水処理施設工事
				試運転 稼働

銚子連絡道路整備促進事業

地区大会

平成30年5月23日、匝瑳市八日市場ドームにおいて第20回銚子連絡道路整備促進地区大会を開催いたしました。

国・県・沿線市町関係者等大勢の方々の出席のなか、大会主催者代表としてあいさつに立った山武・東総地域広域幹線道路網整備促進期成同盟会会長（旭市長）は、「海と緑の豊かな自然環境から育まれる新鮮で安心安全な農水産物を首都圏へいち早く供給するための輸送手段として、また、災害時等における緊急輸送路の確保を図るためにも、

銚子連絡道路の一日も早い完成が必要である。」と来場者に訴えました。

また、経済ジャーナリストの須田慎一郎氏をお招きし、「どうなる日本経済のゆくえ」と題した基調講演を行いました。



▲あいさつする明智忠直会長



▲要望書を千葉県副知事（右）へ手渡す明智会長（左）

要望活動

第20回銚子連絡道路整備促進地区大会での決議をふまえて、平成30年10月29日、山武・東総地域広域幹線道路網整備促進期成同盟会は、地元選出議員である林幹雄衆議院議員の紹介で、衆・参国会議員、財務省、国土交通省及び関東地方整備局を訪問し、銚子連絡道路の早期完成に向けての要望活動を行いました。



▲要望書を森国土交通省事務次官（右から3番目）へ手渡す



▲森国土交通省事務次官に要望内容を説明する

職員採用試験合同実施事業

- 目的：構成市、圏域内一部事務組合の職員採用試験を合同で実施し、経費の節減・採用候補者の資質の均一化を図ります。
- 実施日：平成30年9月16日(日)
- 試験会場：銚子市立銚子高等学校
- 参加団体：6団体（銚子市、旭市、匝瑳市、東総衛生組合、匝瑳市横芝光町消防組合、東総広域水道企業団）
- 試験職種：13職種（一般行政職、技術職、保育士職、消防職等）
- 応募者数：249人
- 受験者数：219人

職員共同研修事業

- 目的：構成市、圏域内一部事務組合の職員として執務に必要な基礎的知識を習得するとともに指導力及び勤務能率の向上を図ります。

実施する主な研修

- ・ 新任職員研修：新規採用職員に対する研修
- ・ 初級職員研修：在職期間4年以上の職員に対する研修
- ・ 中級職員研修：在職期間10年以上の職員に対する研修
- ・ 監督者研修：係長又は同等の職にある職員に対する研修



▲研修状況

- 修了者：計245人

東総地区広域市町村圏事務組合の概要

○事務組合の構成

構成団体：銚子市、旭市、匝瑳市

圏域面積：316.16km²

圏域人口：168,262人

銚子市 面積：84.19km² 人口：64,415人

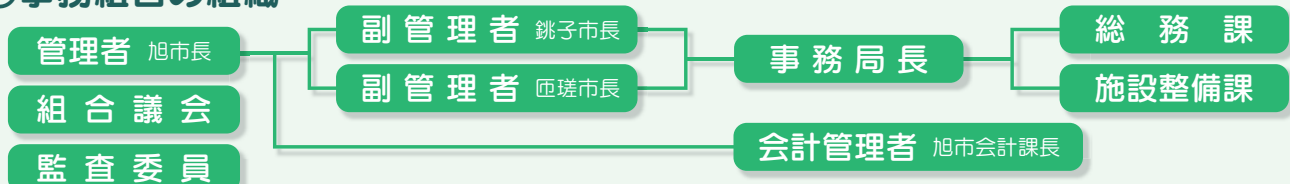
旭市 面積：130.45km² 人口：66,586人

匝瑳市 面積：101.52km² 人口：37,261人

【平成27年国勢調査より】



○事務組合の組織



東総地区中学生海外派遣研修事業



▲交流校であるセコラ・インドネシア・シンガプーラにて

圏域内中学2年生30人の参加による『東総地区中学生海外派遣研修』が、シンガポール共和国において平成30年7月24日から28日（4泊5日）までの日程で実施されました。

この研修では、シンガポールでの班別自主研修や、昨年に引き続き現地学校の「セコラ・インドネシア・シンガプーラ」を訪れての交流会、積極的な英会話の実践をテーマとした研修を行ってきました。

班別自主研修では、事前の研修会で計画した行動予定に従ってシンガポールの街を散策しました。各班とも団員が協力し合い、これまで学習した英会話に身振り手振りを加えながら、道を尋ねたり買い物をしたりと楽しく一日を過ごしました。

現地学校との交流会では、最初に交流の証として記念品の交換を行いました。次に現地校生徒からは民族舞踊を披露していただきました。こちらの研修団からはダンスの「バブリーダンス」、団員全員による合唱「YMCA」、竹とんぼのパフォーマンスを披露しました。その後、団員1人に対し現地学校の生徒2人で校内を案内していただき、日本の学校との違いに団員たちは驚いていました。短い時間の中ではありましたが、異国の友達と英語を使って交流することができたことは貴重な体験となりました。

今回の研修では、多民族国家であるシンガポールで、公用語である英語を通して、お互いの文化・生活・宗教を理解し尊重しながら生活している様子を肌で実感することができました。

この経験が、次代を担う中学生たちにとって国際社会への関心を高めるとともに、日本の文化・日本の良さなどを再認識する一つのきっかけになってくれればと思います。



▲交流校の生徒との合唱の様子



▲サッカー交流戦のあと現地校生徒と記念写真